教科・科目名（単位数）		農業・農業情報処理演習（２単位）		ＨＲ コース	３年ＡＢＣ選択
学年	３年	使用教科書・副教材等	農業情報処理（農文教）		
目標　　社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、コンピューター（ソフトウェア）に関する応用知識と処理能力の技術習得を図る。農業情報および環境情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。					

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	情報社会に積極的に参画する態度を持ち、情報技術（コンピューター）を主体的に活用し、情報社会の課題を解決しようとしている。
②　思考・判断・表現	情報機器や情報通信ネットワーク、ソフトウェアを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに、主体的かつ効果的にコミュニケーションを行うための表現技術を習得している。
③　技能	情報技術を活用するための技能を習得している。
④　知識・理解	情報及び情報技術を活用するための知識、情報及び情報技術が果たしている役割・影響を理解している。

評価方法	授業毎の記述の点検、確認、分析 実習毎の行動の観察、確認、分析 （定期テスト、小テスト、授業・実習レポート、提出物への取り組み状況、授業・実習への取り組み状況）

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	○ｿﾌﾄｳｪｱと情報の活用 ○情報化社会のモラル ○情報技術の活用 （ワープロソフト）	○パソコンで利用できるソフトウェアの種類と概念 ○高度情報化社会におけるモラル概念と、データ・個人情報を保護するセキュリティシステムを学習する。 ○ワープロソフトの特徴と機能を理解し、速度文・図を含む文書の作成（表・罫線・網掛け・図の挿入・図形の挿入を利用した技術の習得）を学び、農作物の販売広告デザインや、フィールド図面などに活用する。
2	○情報技術の活用 （表計算ソフト）	○表計算ソフトの特徴と機能を理解し、関数の応用（INT・AND・OR・IF VLOOKUP・ROUNDOUP関数）、および表・グラフの作成（棒・折れ線・円・複合グラフ）を学ぶ。 ○実際に農業実習において得たデータの演算処理、表・グラフ等における表現技法を学習する。
3	○情報技術の応用 （プレゼンテーションソフト）	○プレゼンテーションソフトの特徴と機能を理解し、基本操作・応用操作（文字入力・静止画挿入・動画挿入・図形の加工・表の加工・グラフの作成・画面切り替えの設定・アニメーションの応用）を学ぶ。 ○プレゼンテーションソフトを活用し、課題研究およびプロジェクト学習に活用する技術を身につける。

教科・科目名（単位数）	農業・植物バイオテクノロジー（２単位）	ＨＲ コース	Ｃ選択
学年 ３年	使用教科書・副教材等	植物バイオテクノロジー（農文協）	
目標　植物に関するバイオテクノロジーの知識と技術を習得させ、植物体の特性とバイオテクノロジーの特質を理解させるとともに、農業の各分野で活用する能力と態度を育てる。			

評価の観点とその趣旨

① 関心・意欲・態度	植物に関するバイオテクノロジーについて興味・関心をもち、課題の探究に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。
② 思考・判断・表現	植物に関するバイオテクノロジーに関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③ 技能	植物に関するバイオテクノロジーに関する基礎的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。
④ 知識・理解	植物に関するバイオテクノロジーに関する基礎的な知識を身に付け、植物バイオテクノロジーの意義や役割を理解している。

評価方法	(1)授業への取組み：授業に対する姿勢、授業への取組み、関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容：授業内容を適切にまとめているかなどを評価する。 (3)観察・実験等：観察・実験に対する姿勢、器具の操作、報告書などから評価する。 (4)定期考査：学習内容にあわせて問題を出題する。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	1バイオテクノロジーの意義と役割	(1) バイオテクノロジーが、生物のもつ成長、繁殖、遺伝等の機能を似生活に役立てる技術であることを理解する。 (2) 農林業、食品産業、発酵工業、水産業、医薬品製造業等の分野で利用されていることを理解する。
	2植物組織培養の基礎	(1) 施設と実験機器・器具について理解する。 (2) 実験・実習を安全に行うための基本事項を理解する。 (3) 実験・実習（培地調製等）
	3植物バイオテクノロジーの実践	MS培地の作成を行う。 無菌操作についての行程を習得させる。
2	4植物バイオテクノロジーの実際	1) ラン科植物の無菌播種と培養① (2) 茎頂培養
	5植物ホルモンについて	植物ホルモンの種類、生理作用について理解する。
	3植物バイオテクノロジーの実践	ｾﾝﾄﾎﾟｰﾘｱ、ｷｸの培養を通して植物ホルモンの生理作用を実験する
3	4植物組織培養の基礎	(1) ラン科植物の無菌播種と培養・順化② (2) セントポーリアの継代培養
	3植物バイオテクノロジーの実践	ラン科植物の無菌播種から発芽の違いを理解する。
	6農業におけるバイオテクノロジーの成果	学習内容について1年間のまとめを行う。

教科・科目名（単位数）	農業・選択　食品製造２単位）	ＨＲ コース	３年選択　Ｂ　Ｃ
学年　３　　年	使用教科書・副教材等	食品製造（実教出版）	

目標

身近な食品素材の特徴を理解してより良い食品への加工を行い、貯蔵性を（乾燥　塩漬け　ビン詰等）高めたり、し好性　栄養性を高めたりする食品の学習を行うことを目標とする。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	食品製造の意義やその目的、利用価値などを理解して食品の加工を行うようにする。
②　思考・判断・表現	食品素材に合った食品加工技術を実験実習などの学習をとうして、自ら考え判断する能力を身につけるようにする。
③　技能	食品加工技術の操作を身につける。（塩蔵　糖蔵　酸などを利用した貯蔵法を身につける）
④　知識・理解	食品素材の特徴を理解する（各食品の変質についての知識）食品を加工することにより保存性や栄養性を向上させる技術を習得する。

評価方法	授業への取り組み、振り返り、分析 実習への取り組み、振り返り、分析 定期試験の理解度 レポート・提出物の内容

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	食品製造の意義 果実類の加工	食品製造とその目的 （1）食品産業の現状と動向 果実類の加工 （1）果実の特徴　種類 （2）ジャムの製造（苺）　マーマレードの製造
	野菜類の加工 発酵食品の製造	漬け物の特徴　種類 （1）梅干づけの製造 発酵食品の特徴　味噌の種類 （1）発酵食品と微生物 （2）味噌の製造　味噌の種類
2	穀物の加工	穀物の特徴　種類 （1）小麦粉の特徴　種類 （2）うどんの製造
	果実の加工 乳製品の加工	果実類の加工　温州ミカンの特徴 （1）温州ミカンのシラップ漬け 牛乳の加工　牛乳の種類　乳製品の種類 （1）牛乳の特性　種類　牛乳　発酵乳　チーズ　クリーム （2）アイスクリームの製造　バターの製造
3	肉類の加工	肉の成分と加工特性 （1）牛　豚　トリの種類　各部位の特徴 （2）豚肉の加工（煮豚）

教科・科目名（単位数）	理科・生物　（２単位）	ＨＲ コース	全 （ＡＢＣ選択）

学年	３年	使用教科書・副教材等	生物（数研出版）・ﾘｰﾄﾞLightノート（数研出版） 生物総合資料(実教出版)

農業高校における理科としての目標：科学における基本的な原理・法則を理解し、農業科目を学ぶ上で必要となる論理的な思考力を養うことを目標とする。
科目目標：日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	身近な生物や生物現象への関心を高め、生徒自らが観察・実験などを行い、日常生活や社会と学習の内容に関わりがあることに気づく力を持つ。
②　思考・判断・表現	実験・観察などを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解する見方や考え方を身に付けている。
③　技能	多種多様な生物や生物現象についての観察、実験などのねらいを明確にして計画・実施・考察ができる技能を身に付けている。
④　知識・理解	観察・実験などを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則などを理解でき、それを日常に反映することができる知識を身につけている。

評価方法	(1)授業への取組み：授業に対する姿勢、学習態度、生物への関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実験等：観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。 (4)教科書・問題集の問題：各問題への取組み、取り組んだ内容から評価する。 (5)中間・定期考査：学習内容にあわせて問題を出題し、その回答記述から評価する。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	第１編生命現象と物質 １章　細胞と分子 ２章　代謝	・生命現象を支える物質の動きについて観察・実験などを通して探求し、タンパク質や核酸などの物質の動きを理解し､生命現象を分子レベルでとらえる。
	３章　遺伝情報の発現	・遺伝子の本体であるＤＮＡの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみそして、遺伝子発現の調節を理解する
2	第２編　生殖と発生 ４章　生殖と発生	・生物の生殖や発生について観察、実験などを通して探求し、動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解する。
	第３編　生物の環境応答 ５章　動物の反応と行動 ６章　植物の環境応答	・環境の変化に生物が反応していることについて観察、実験などを通して探求し、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。
3	第４編　生体と環境 ７章　生物群集と生態系 第５編　生物の進化と系統 ８章　生命の起源と進化 ９章　生物の系統	・生物の進化の過程とその仕組み及び生物の系統について、観察、実験などを通して探求し、生物界の多様性と系統を理解し、進化についての考え方を身に付ける。 ・多様な生物が多様な集団として、自然環境の中でどのようにして存続してきたかを理解する。

教科・科目名（単位数）	理科・化学　（２単位）	ＨＲ コース	全クラス （ABC 選択）

学年	３　年	使用教科書・副教材等	新版　化学（実教出版）

農業高校における理科としての目標：科学における基本的な原理・法則を理解し、農業科目を学ぶ上で必要となる論理的な思考力を養うことを目標とする。
科目目標：化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	化学的な事物・現象に関心や探求心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
②　思考・判断・表現	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを明確に表現している。
③　技能	化学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
④　知識・理解	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。

評価方法	(1)授業への取組み：授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実験等：観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。 (4)教科書・問題集の問題：各問題への取組み、取り組んだ内容から評価する。 (5)定期テスト：学習内容にあわせて問題を出題し、その回答記述から評価する。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	無機物質の性質と利用 ・無機物質 ・無機物質と人間生活	無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解させ、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
	物質の状態と平衡 ・状態変化 ・気体の性質 ・固体の構造 ・溶液と平衡	気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、妖怪平衡及び溶液の性質について理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
2	物質の変化と平衡 ・化学変化とエネルギー ・化学反応と化学平衡	化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
	有機化合物の性質と利用 ・有機化合物 ・有機化合物と人間生活	有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
3	高分子化合物の性質と利用 ・高分子化合物 ・高分子化合物と人間生活	高分子化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。

教科・科目名（単位数）	国語・国語表現（２単位）	ＨＲ コース	Ｃ選択
学年	３年	使用教科書・副教材等	国語表現（大修館書店）国語表現ナビ（浜島書店） NIE教材など

農業高校における国語科としての目標
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、科学と言語文化に対する関心を深め、農業従事者としての使命と責任を持ち、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
科目目標
国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し,伝え合う力を高めるとともに,思考力や想像力を伸ばし,言語感覚を磨き,進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

評価の観点とその趣旨

① 関心・意欲・態度	教材を通じ、積極的な調べ学習に取り組み自己を的確に表現しようとする姿勢を持つ。
② 話す・聞く能力	テーマについて論理的で客館的な意見を述べ、併せて他者の意見を的確に理解する態度を習得する。
③ 書く能力	教材について様々な角度から検討し論理的で根拠を明確にした文章力を養う。
④ 知識・理解	農業社会の現在や世界情勢と産業社会について進んで学ぶ姿勢を身に付ける。 また、自然環境や地域社会と農業について考察を深める。

評価方法	・論文作成を中心に、調べ学習についてのレポート提出など作文力を中心に評価をする。 特にグラフやデーターから事実や法則性を認識する能力を重視する。 ・また、農業実習や本校での社会体験を教材にデスカッションやスピーチ、韻文創作などの表現力も評価に加える。 ・上記の課題と共に定期テストの結果を総合的に評価する。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	「書いて伝える」 「自己ＰＲ」	・テーマについて科学的で論理性のある主張を構築する能力を取得する。 ・的確でまとまりのある文章を、与えられた時間の中で規定の文字数で表現する演習を行う。 ・テーマや題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えを深め客観的で説得力のある自己表現と作文力を身に付ける。
	「スピーチとデスカッション」 「小論文・レポート作成」	・目的や場に応じて、言葉遣い表現を工夫し説得力と親和性に富んだ話し方を習得する。 ・グラフや数値化されたデーターを的確に読み取り、考察を深め、自己の意見を述べる。
2	「小論文・自己身上書」	・学校活動（農業実習・学習・部活動・資格の取得など）について自己省察を深め将来の進路や社会との関わりを考察し、説得力のある自己表現能力を身に付ける。
	「調べ学習・デスカッション」	・個々の進路に応じた対象についてWEBや様々や資料で調べ課題作文や自己身上書の作成に役立てる。農業と社会、特に環境問題についてこれまでの農業学習との関連をつうじ話し合う。
3	「自己を見つめ表現する」	・これまでの生育歴や自己の個性を観照し、将来の展望を考え表現してみる。 ・家族・友人・社会との関わりを考察し文章化し振り返る。

教科・科目名（単位数）		家庭・子どもの発達と保育（２単位）	ＨＲ コース	選択Ｃ
学年	３年	使用教科書・副教材等	子どもの発達と保育　（実教出版）	

農業高校における家庭科（子どもの発達と保育）の目標

農業に関する内容を「栄養と食事」「生活と遊び」の分野に取り入れ、理解を深める。

目標　家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

（２）子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

（３）子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	・子どもとおとなの違いに関心を持ち、乳幼児と養育者との関わりの重要性に関心を持ち養育者から受ける影響力を理解しようとする。
②　思考・判断・表現	・保育に関する問題を題材に用い、子どもが育つ環境の重要性を考え、自分の考えを文章で表現できる。 ・愛着形成が子どもの成長に及ぼす影響について考えることができる。
③　技能	・集団保育の実習を通して乳幼児の生活や行動などを観察し、適切な関わりができる。
④　知識・理解	・胎児の発育について理解し生命誕生に関する母体環境の重要性を理解する。 ・乳幼児期が人格形成上重要な時期であることを理解する。 ・子どもとおとなのちがいについて自分なりの理解ができる。
評価方法	・授業プリント記述の点検、確認、分析 ・実習時の行動の観察、確認、分析 ・定期テスト・小テスト・課題レポート・作品・授業の取り組み

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	子どもの発達の特性 発達と乳幼児期の意義 児童観と発達観	・乳幼児期は親を中心とした身近な人との関わりにより心が落ち着くことを理解する。 ・児童観や発達観が時代によって変化していることを理解する。
	子どもの発達の過程 胎児の発達過程 乳幼児の身体的特徴	・胎児の発達について理解し、生命誕生に関わる母体環境の重要性を知る。 ・乳幼児の身体発達の特徴と生理的特徴を学ぶ。
2	人間関係の発達 愛着関係と人間関係の形成 子どもの人格形成	・発達における共通性を理解する。乳幼児にとって「愛着」が重要であること、形成のシステムを理解する。 ・幼児の「第一反抗期」「自我」についてVTRを視聴し、理解する。
	子どもの生活 子どもの養護 子どもと遊び 生活習慣の形成	・乳幼児の生活の特徴を学び、発育、発達に応じた養護が必要なことを理解する。 ・布オムツと紙オムツの特徴を調べて体験し、それぞれの利点を考える。 ・乳幼児は遊びを通して発育し、発達することを理解する。 ・生活習慣形成の意義と重要性を理解する。

3	保健管理と事故防止 　子どもの福祉と子育て支援 　子どもの福祉 　子育て支援	・乳幼児の成長段階における事故の実態と原因を考える。 ・児童相談所などの児童福祉機関や施設の種類と目的を学び、児童と家庭に対する社会的援助を理解する。 ・親（おとな）の役目について自分の考えを発表する。 ・子育て支援に関する社会的背景をもとに、子育て家庭への支援に関する施策があることを理解し、意義について考える。

教科・科目名（単位数）	数学・数学ＩA演習　（2単位）	ＨＲ・コース	Ｃ選択
学年　3年	使用教科書・副教材等	数学Ｉ・Ａ基本問題精選　（中部日本教育文化会）	

農業高校における数学科としての目標
　学習した内容を活かした、新しい物事を生み出す力を育てる。
　順序立てて物事を考え、最終目標にたどり着く手段を考える力を養う。
科目目標
　数学Ｉ、数学Ａの内容を復習しながら、基礎を固め、その上で、発展的な内容について理解を深める。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	数学Ｉ・数学Ａの内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
②　思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学Ｉ・数学Ａの内容における数学的な見方や考え方を身に付けている。
③　技能	数学Ｉ・数学Ａの内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
④　知識・理解	数学Ｉ・数学Ａの内容における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・定期テスト ・提出物、課題の取り組み ・授業への取り組み

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	数と式 ２次関数	数学Ｉの数と式の範囲を復習しながら、基本問題を練習します。 数学Ｉの２次関数の範囲を復習しながら、応用問題に取り組みます。
	２次不等式 図形と計量	２次関数のグラフを用いて、２次不等式を解きます。 数学Ｉの三角比の復習をしながら、基本問題を練習します。
2	図形と計量 データの分析 まとめの問題(数学Ｉ)	三角比の考えを用いて、様々な図形の長さや角の大きさを求めます。 数学Ｉのデータの分析の範囲を復習しながら、基本問題を練習します。 数学Ｉの範囲のまとめの問題を解きます。
	場合の数と確率	数学Ａの場合の数と確率の範囲を復習しながら、基本問題を練習します。
3	図形の性質 まとめの問題(数学Ａ)	数学Ａの図形の性質の範囲を復習しながら、応用問題に取り組みます。 数学Ａの範囲のまとめの問題を解きます。

教科・科目名（単位数）	農業・生物活用（２単位）	ＨＲ・コース	３年　Ｃ選択
学年　３　年	使用教科書・副教材等	生物活用（実教出版）	
目標　園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得させる。主に園芸作物の特性を利用した活動を行い、家庭生活の質の向上を図る能力と態度を育てる。			

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	園芸作物の役割に関心を持ち、実際に栽培することで、生活の質の向上を図る態度を養う。
②　思考・判断・表現	作物を利用した製作物の効率的な活用方法について考える。栽培や活用について学んだ知識や技能が応用できるか考える。実習作業における安全性や必要な道具・準備・片付けまで自ら考えて行動できる。
③　技能	園芸作物の栽培に必要な基本的な技能や、作物を活用した製作物の作成技術を身につけ、応用できる技法を習得している。
④　知識・理解	園芸作物の栽培や活用に関する基本的な知識を身につける。

評価方法	各授業における記録、レポート、発表、学習への意欲・態度 実習における活動、積極性や主体性、製作物の状況、園芸作物の管理 中間・期末テスト（年５回）

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	生物活用の意義と役割 園芸と人間生活	園芸作物が生活・福祉・医療の現場で活用されている具体的な事例を学習する。植物と対人サービスの関わりや精神や身体の健康回復への効果について学習する。
	園芸作物の利用 野菜の栽培と活用 草花の栽培と活用 多肉植物の活用	校内花壇を利用した、夏野菜・多肉植物・花木類（バラなど）、観葉植物の特性や栽培に関する基本的な知識や技術を学習する。
2	園芸作物の利用 野菜の栽培と活用 草花の栽培と活用 多肉植物の活用	１学期に栽培管理を行った園芸作物をもとに、加工や寄せ植えなど活用方法を実習を通して学習する。 秋野菜の栽培を通し知識や技術を養う。 省スペースや、プランター、袋を利用した秋冬野菜の栽培を行う。多年草や、花木類に関しては、引き続き栽培管理を行う。
	園芸作物の利用 野菜の栽培と活用 草花の栽培と活用 多肉植物の活用	秋野菜の栽培管理を行った園芸作物をもとに、加工や寄せ植えなど活用方法を実習を通して学習する。 花木類に関しては、引き続き栽培管理を行う。
3	次年度への準備	管理してきた圃場等を整備するとともに、次年度の準備として土づくりを行う。

教科・科目名（単位数）	日本史演習　（２単位）	ＨＲ コース	Ａ・Ｃ選択

学年	３　年	使用教科書・副教材等	高等学校日本史Ａ（清水書院） プロムナード日本史（浜島書店）

農業高校における地歴公民科（日本史演習）としての目標

現代の社会が、農業の学習をふまえて自分たちの身近な歴史から成立っていることを理解する。

科目目標

２年次必修の「日本史Ａ」の学習を基礎に日本史学習を深める。

また、現代社会を理解する上で必要と考えられる戦後史を、主体的に理解する力を養う。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	居住している地域や家族から聞いている時代の学習をすることで、現在の自分が、過去の歴史の上に成り立っていることを自覚して、歴史的な認識力を身につける。
②　思考・判断・表現	歴史的事象が、どのような理由で起きて、どのように推移し、どういった結果になったか理解する。そしてその結果が、その後の歴史や社会にどのように影響を与えたかを考察し、理解する。
③　資料活用の技能	出来事の原因、推移、結果を的確にまとめ、それを文章や図にて表現する。そして、その後の歴史とのつながりを時系列にまとめることによって、通史的に理解する。
④　知識・理解	基本的な歴史用語や、その具体的な内容を憶える。現代の生活や地域の生活で教養として身に付けたい知識を自分のものとする。

評価方法	定期テストの成績を中心に、課題の提出とその内容、ノートのまとめ方を合わせて評価する。 また、授業での質問の返答や授業での積極的な発言、ノートへの自主的な内容の記入などを評価する。また、映像や資料などを利用した授業では、レポートの提出とその内容、およびその発表を評価とする。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	近世から近代へ	近世、江戸時代の概要を再確認し、近代にいたるその素地が、江戸時代にあることを理解する。
	近代のはじまり 明治維新から近代国家の形成へ	明治維新を経て、明治政府の体制が確立する過程を理解することによって、現在の日本の政治体制の素地となっていることを知る。
2	立憲政体の成立と国際関係	近代国家の建設のなかで、自由民権運動と政党の結成とすすみ、立憲体制と議会が形成されていく過程を知る。このことを理解する中で、民衆を含め、自立的なかたちで議会政治が形成されることを導く。
	対外戦争と日本の敗戦	近代国家の発展とともに、軍事的な対外進出を進めていく要因を考えさせ、その結果としての世界大戦へ至る過程を知る。そして最終的に悲劇的な敗戦を迎える理由を考える。
3	戦後史から現代へ	敗戦後、民主国家となった日本の政治と、高度経済成長とともに資本主義経済の進展、そしてバブル崩壊を経て、現在に至る歴史を、自らの体験とあわせて理解する。